

日本乳癌学会 九州地方会
教育セミナー 治療部門

2017. 3. 5

熊本大学医学部附属病院
乳癌分子標的治療学寄附講座
指宿 睦子

Case 1

67歳女性

8年前 左乳癌にて左Bt+SNB pT2(3cm)pN0(sn)M0 Stage IIB

IDC Grade 2 ER 90% PgR 5% Her2 1+

術後治療 温存乳房照射

アナストロゾール 5年間投与終了

左腋窩に2個腫大リンパ節あり

左腋窩リンパ節生検(1個): IDC ER 100% PgR <1% Her2 1+ Ki67 15%

両乳房、他臓器異常なし

Q1

- 局所療法はどうしますか？
- 全身療法はどうしますか？

Case 1

左腋窩リンパ節廓清 レベルI+II (2/18)

レトロゾールを開始して1年経過した。

左鎖骨上リンパ節を触知、細胞診にて乳癌の転移

両乳房、他臓器異常なし

Q2

- 局所療法はどうしますか？
- 全身療法はどうしますか？

Case2

69歳時女性

左乳房腫瘍(2cm,露出なし)にて来院

針生検施行、IDC NG2 ER 100% PgR 0% Her2 1+ Ki67 40-50%

他に自覚症状なし

16年前に他院にて左乳癌に対し治療

(Bp+Ax、温存乳房照射、ホルモン療法:詳細不明)

既往歴 37歳:胃癌、53歳:乳癌 66歳:食道癌、67歳:咽頭癌

PET-CTにて肝S3に1.5cmの単発腫瘍:転移性肝癌の診断

Q3

- 転移巣の生検を勧めますか？

Case2

肝生検施行

IDC NG2 ER 100% PgR 0% Her2 1+ Ki67 40%

Q4

- 局所療法はどうしますか？
- 全身療法はどうしますか？

Case 3

42歳時 他院にて左乳癌手術 バイオロジー・治療不明。

51歳時 胸膜転移(左胸水)、多発骨転移(Th12,L3-5)にて再発。

以後逐次内分泌療法+Bone modifying agent施行された。

ANA:4年、TAM:2年、LET:1年、EXE:9カ月、高容量TOR:1年、FUL:3カ月

経過中、胸水はコントロール内、骨転移は肩甲骨、Th8-10に新規病変。

60歳時 3か月間で腫瘍マーカー急上昇

CA15-3: 43U/mL → 370U/ml

CTにて3か月前指摘なかった肝転移2個(5cm, 2cm)。

他部位増悪なし。当院へ紹介となった。

自覚症状なし

血液検査・心肺機能異常なし

Q5

- 転移巣の生検を勧めますか？

Case 3

肝生検施行

IDC ER 90% PgR 90% Her2 3+ Ki67 25%

Q6

- 全身療法はどうしますか？

Case 3

トラスツズマブ＋ペルツズマブ＋ドセタキセルを6コース施行

肝転移が著明に縮小したため、
トラスツズマブ＋ペルツズマブ＋レトロゾールにて
4か月維持されていたが、

来院時に右視力の軽度低下の訴え。脳転移あり。
MRIでは2cm大4個。

四肢麻痺なし PS0
血液検査・心肺機能異常なし

Q7

- 局所療法はどうしますか？
- 全身療法はどうしますか？